



「金蔵山古墳」について 国指定史跡への答申が出されます

金蔵山古墳は、中区沢田に所在し、現状保存されてきた4世紀後半の大型古墳です。この度の史跡指定は、古墳のもつ学術的・歴史的価値を鑑み、周知化や保存活用の点から、保護の措置を図ろうとするものです。

1 古墳の概要

- ・指定の対象の名称

かなくらやまこふん
金蔵山古墳

- ・指定の対象所在地

岡山市中区沢田

- ・指定の対象地域の面積

38,699.00㎡（民有地 41筆）

- ・古墳の築造時期と規模等

古墳時代前期末から中期初頭 墳長約158mの前方後円墳

2 内容

本件は令和8年2月に、文部科学大臣へ史跡指定の意見具申を提出しております。6月19日（金）に開催される文化審議会は、同審議会文化財分科会の審議・議決を経た上で、金蔵山古墳を史跡の新指定として文部科学大臣に答申する予定です。

古墳は、岡山平野の中央部、操山丘陵に立地しており、墳丘は3段に築かれ、加えて端部には低いテラス状の段がつき、西くびれ部には造り出し、東くびれ部には島状遺構が付属しています。

昭和28年に倉敷考古館による発掘調査が後円部墳頂を中心に行われ、2基の竪穴式石室、副葬品用の小石室、それらに伴う豊富な副葬品や、各石室の上部には方形壇と、これに伴う方形埴輪列が確認されました。

その後、平成26年度から令和4年度に岡山市教育委員会により発掘調査が行われ、古墳の規模や構造を確認できました。特に、未調査であった造り出し、島状遺構では埴輪列で区切られた空間に形象埴輪を配置し、土製品や土器を用いた祭祀が行われたと考えられます。墳丘と島状



遺構の谷部では、水の儀礼に関わる導水施設を内部に表現した家形埴輪と、これを囲む圀形埴輪、柵形埴輪が出土しており、重要な発見です。

金蔵山古墳は、当該期の中国・四国・九州地域における最大規模の古墳です。これまでの調査で後円部の埋葬施設や副葬品に加え、後円部墳頂、造り出し、島状遺構といった各所で埴輪などの組成や配置内容が明らかになっており、吉備を代表する首長墓であります。さらに、古墳の構造や副葬品、体系的な形象埴輪群はヤマト王権との密接な関係性をうかがえ、副葬品の中には朝鮮半島との交流をみることが出来るものが含まれます。以上を踏まえ、吉備の地域首長の実態とその動向、またヤマト王権の政治的動向を考える上で重要と評価されました。

今回の指定にあたり、市内の国指定史跡は19か所となります。また、岡山県内でみて平成20年の彦崎貝塚(南区彦崎)以来、18年ぶりとなる新規指定となります。

今後は、金蔵山古墳を貴重な史跡として将来にわたって、保存・継承していくための計画づくりを進める予定です。

3 留意事項

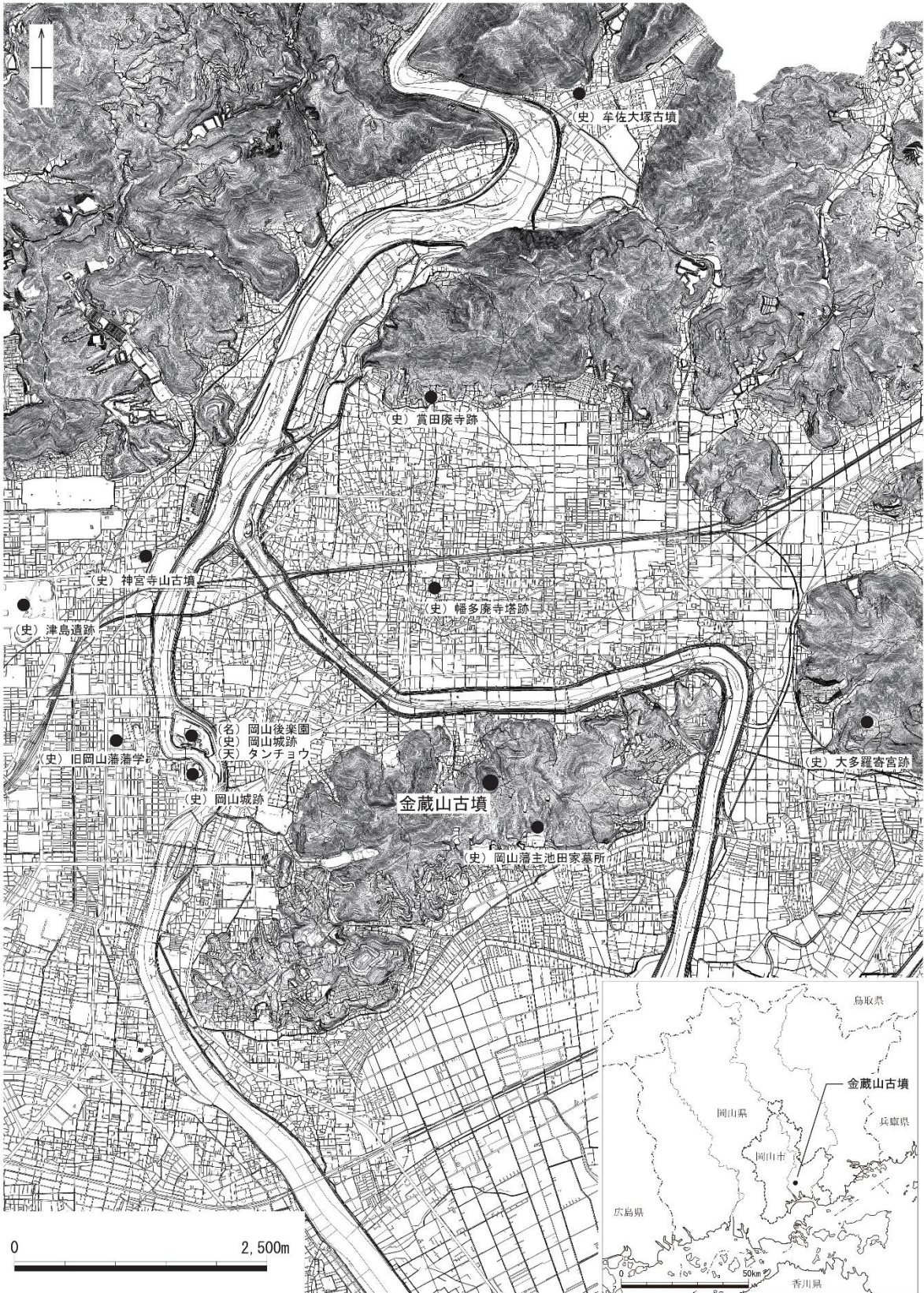
発表内容については、全国一律の公表日時が以下の通り示されています。それより前に報道されることのないようお願いいたします。また、審議会の終了時刻によっては解禁時間が後ろにずれる場合があります。その際は、別途お知らせいたします。

テレビ・ラジオ・インターネット: 6月19日(金) 17:00 解禁

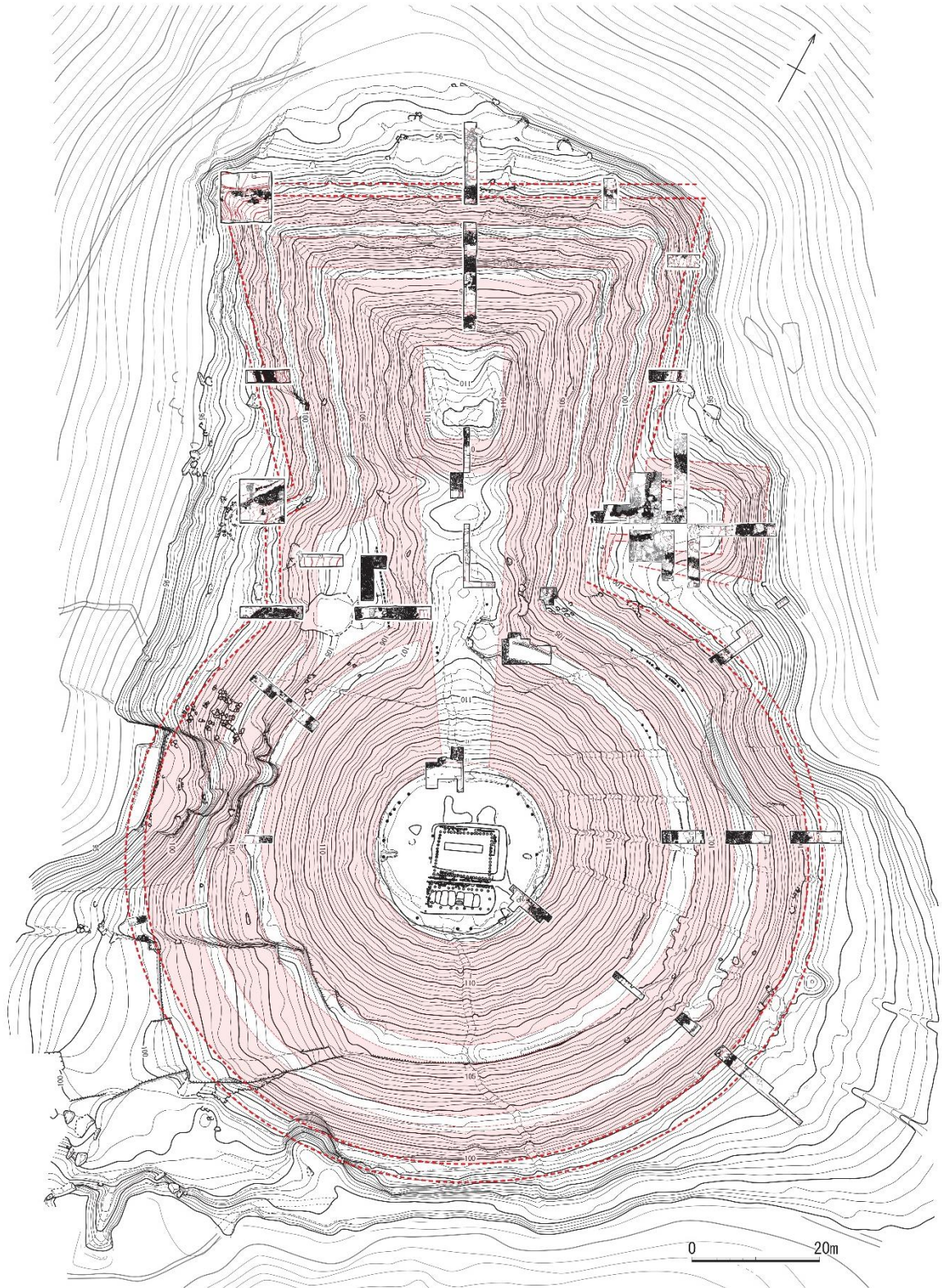
新聞: 6月20日(土) 朝刊 解禁

【問い合わせ先】

岡山市教育委員会 文化財課 萩原・寒川 直通086-803-1611 内線3875



金蔵山古墳の位置図



墳丘復元図



平成 26 年度発掘調査時
造り出し埴輪、葺石検出状況（北から）



平成 29 年度発掘調査時
墳丘－島状遺構間の埴輪出土状況（北から）



令和元年度発掘調査時
前方部 第 2～3 段目（北から）



令和3年度発掘調査時
くびれ部の後円部第2段テラス（西から）



古墳遠景（北から）



後円部南石室現況（西から）



【岡山市における国指定史跡一覧】

種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
史跡	造山古墳 (つくりやまこふん) 北区新庄下	大正 10 年 3 月 3 日 (1921)	岡山市ほか	全長 350m。古墳時代中期の巨大前方後円墳。全国 4 位の規模。前方部先に千足古墳・榊山古墳を含む 6 基の小墳が並ぶ。
史跡	旧岡山藩藩学 (きゅうおかやまはんがく) 北区蕃山町	大正 11 年 3 月 8 日 (1922)	岡山市	岡山藩主池田光政が寛文 9 年(1669)に設けた藩士子弟の藩学。講堂、校門、正門が遺存したが戦災で焼失。泮池現存。
史跡	大多羅寄宮跡 (おおだらよせみやあと) 東区大多羅	昭和 2 年 4 月 8 日 (1927)	布施神社	正徳 2 年(1712)に藩主池田綱政が、藩内 71 社の寄宮の内 66 社を再統合して祀ったもの。寄宮は寛文の神社淘汰策で造立。
史跡	万富東大寺瓦窯跡 (まんとみとうだいじかわらがまあと) 東区瀬戸町万富	昭和 2 年 4 月 8 日 (1927)	岡山市ほか	平安時代末に戦乱で焼失した東大寺の再建瓦を焼成した瓦窯。建久 4 年(1193)に備前国が造営料国となり築かれた。
史跡	惣爪塔跡 (そうづめとうあと) 北区惣爪	昭和 3 年 2 月 7 日 (1928)	国	足守川畔の水田中に長径 2m、短径 1.5m の塔心礎が遺存。関連遺構は不明ながら、付近から瓦が出土。津臣関連の氏寺跡か。
史跡	真金一里塚 (まがねいちりづか) 北区吉備津	昭和 3 年 3 月 24 日 (1928)	国	江戸時代の山陽道(西国街道)の一里塚。旧道を挟んで黒松を植えた北塚、榎木を植えた南塚が対をなして残る。
史跡	高松城跡 (たかまつじょうあと) 北区高松ほか	昭和 4 年 12 月 17 日 (1929)	岡山市ほか	天正 10 年(1582)の中国役の主戦場となった城跡。羽柴秀吉の水攻めで著名。平城で郭の土壇と水攻め築堤の一部が残る。
史跡	牟佐大塚古墳 (むさおおつかこふん) 北区牟佐	昭和 5 年 2 月 28 日 (1930)	国	古墳時代後期の吉備地方三大巨石墳の一つ。円墳。全長 18m の横穴式石室に浪形石(貝殻石灰岩)の家形石棺を安置。
史跡	幡多廃寺塔跡 (はたはいじとうあと) 中区赤田	昭和 19 年 11 月 7 日 (1944)	国	県下最大の塔心礎。発掘の結果、寺院跡は白鳳時代後半から平安時代後半まで存続。寺域は東西 123m、南北 128m と推定。
史跡	神宮寺山古墳 (じんぐうじやまこふん) 北区中井町一丁目	昭和 34 年 5 月 13 日 (1959)	天計神社墓地 管理組合	古墳時代前期の大型前方後円墳。吉備地方では珍しく沖積地に立地。全長 150m、後円部高 13m。鉄器類が出土。
史跡	津島遺跡 (つしまいせき) 北区いずみ町	昭和 46 年 1 月 5 日 (1971)	岡山県	岡山平野の初期農耕を示す縄文晩期から古墳時代の集落遺跡。弥生時代前期の水田が居住地と一体的に検出されている。



種別	名称(ふりがな) 所在地	指定年月日 (西暦)	所有者 (管理者)	概要
史跡	賞田廃寺跡 (しょうだはいじあと) 中区賞田	昭和 47 年 3 月 16 日 (1972)	岡山市	備前国最古の寺院で飛鳥時代末期に創建され室町時代に廃絶。盛期の奈良時代後半には東西二塔が檀上積基壇で飾られる。
史跡	尾上車山古墳 (おのうえくるまやまこふん) 北区尾上	昭和 47 年 7 月 29 日 (1972)	岡山市	古墳時代前期の大型前方後円墳。築造当寺は入江に面した臨海性の古墳。全長約 150m。三段築成で古式の様相を示す。
史跡	浦間茶白山古墳 (うらまぢやうすやまこふん) 東区浦間	昭和 49 年 11 月 25 日 (1974)	岡山市ほか	古墳時代前期の大型前方後円墳。全長 138m。前方部が撥形に開き古式の様相を示す。勾玉・銅鏃・鏡・特殊器台形埴輪が出土。
史跡	岡山城跡 (おかやまじょうあと) 北区丸ノ内二丁目ほか	昭和 62 年 5 月 30 日 (1987)	岡山市ほか	16 世紀末に宇喜多秀家が築城した梯郭式の平山城。寛永 9(1632)年には池田光政が移封され明治維新まで池田家の居城。
史跡	岡山藩主池田家墓所 (おかやまはんしゅいけだけぼしょ) 中区円山ほか	平成 10 年 4 月 8 日 (1998)	曹源寺ほか	岡山藩主池田家の墓所と菩提寺。元禄 11(1698)年建立。広大な境内に曹源寺の禪宗伽藍を中心に他宗派の塔頭も配置する。
史跡	大廻小廻山城跡 (おおめぐりこめぐりさんじょうあと) 東区草ヶ部ほか	平成 17 年 3 月 2 日 (2005)	岡山市ほか	七世紀後半の白村江の戦い後に築城されたとする説が有力な古代山城。発掘調査の結果、土塁、石塁、木戸、水門などを確認。
史跡	彦崎貝塚 (ひこざきかいづか) 南区彦崎	平成 20 年 3 月 28 日 (2008)	岡山市	縄文前期から晩期にかけての大規模な貝塚。保存が良好で重層的に形成された貝層をはじめ屈葬人骨や獣骨・魚骨が出土。